

内モンゴル自治区の教員養成システムにおける教育実習の現状 —内モンゴル民族大学を事例に—

格 根 薩 仁

Abstract

This paper analyze mainly the university students' teaching plan based on the "Survey of the current teaching practice by university students" that Author performed in Inner Mongolia University for the Nationalities in September, 2015. I analyze the contents of the theoretical subject carried out in training before student teaching, contents of the on-site present conditions of the student teaching and the instruction lesson schedule. Specifically, 1. I show the flow of teaching practice field, then I introduce the learning content of teaching practice before training with the textbooks "Art Education Theory and Methods" and "Art Education" of fourth grade for the university in fiscal 2015. 2. I analyze the contents of the teaching plan that university students wrote in the field of teaching practice.

キーワード……内モンゴル民族大学 教員養成システム 教育実習

はじめに

本稿では、2015年9月に内モンゴル民族大学で行った「大学生の教育実習の現状の調査」を基に大学生の指導案を中心に分析する。教育実習前訓練の中で行われている理論的な科目の内容、教育実習の現場の現状及び指導教案の内容を分析する。具体的には、①教育実習現場の流れを紹介した上で、教育実習前訓練の学習内容について、2015年の大学4年生の教科書である、『美術教育理論と方法』¹⁾と『美術教育学』²⁾を基に紹介する。②大学生の教育実習の現場で作成した指導案の内容を分析する。

教育を担う教育者は「伝統や知識の伝達」³⁾を超えた役割、つまり子ども一人ひとりの中に秘められた能力や才能を見極め、それが花開くよう手助けするという困難な役割を果たす必要がある。そのため、大学で学習する専門知識は幅広い内容が含まれている。しかし、これらの専門知識を持

内モンゴル自治区の教員養成システムの教育実習の現状（格根薩仁）

った大学生が教員になるためには、教える方法についても学習しなければならない。内モンゴルの小学校の美術教員養成の現状は、教育実習の中に最も反映されていると考えられる。よって、内モンゴルの美術授業の現状を把握するためには、大学生の教育実習の学習内容、指導教案に対する分析を行う必要がある。

1. 内モンゴル民族大学美術学部の概要

内蒙古民族大学は50数年の歴史を持つ内蒙古師範学院、内蒙古医学学院、ジリム牧畜学院の3校が合併し、2000年6月に内モンゴル自治区東部の通遼市に創立された総合大学である⁴⁾。現在では、内モンゴル大学、内モンゴル師範大学に次ぐ、内モンゴルの教員養成機関の一つとなっている。また、18の研究機関があり、国際的かつ様々な分野の研究が行われている総合大学でもある。

1.1 美術学部の概要

美術学部は、2000年6月に内モンゴル自治区東部の通遼市に創立されて総合大学になった後、美術学部は音楽学部と合わせて芸術学院とされていた⁵⁾。その後2010年より、芸術学部（音楽科、美術科）の改革により美術学部と成った。美術学部には美術学（師範）⁶⁾とデザイン（非師範）⁷⁾と北方少数民族美術研究科がある。専任の教員は53人であり、



写真1：内モンゴル民族大学美術学部と音楽学部の建物

そのうち47人が専門教員である。教授が2人、副教授11人がある。当学部の教員の中で博士学位の教員1人、修士課程の教員は39人いる。近年になって、グローバル社会に向けて、外国に留学した経験がある教員を募集している。現在の在校の学生数は490人、その内に美術学（師範類）学部生は、284人、デザイン（非師範類）の学部生は206人いる。その上に大学院生が10人いる。開校以来16万人を超えるさまざまな人材を社会に送り出している⁸⁾。

美術学部と音楽学部は一緒に建物のなっていて面積は6508.5平方メートルであり、その中には、

マルチメディア教室、コンピューター室、展示場、専用絵画室、教科研究センターが設置されている。設備としては、視覚伝達デザイン用のコンピューターが150台があり、プリンター、スキャナー機、デジタルカメラやカメラなど20台がある。また、エッチングプレス機、木工機械、シルクスクリーン印刷機、書画表装機をあわせて20以上の機器がある。そのうえ静物画の装飾品は974個等がある。

美術学部では、日本の教員養成校と類似した美術教育のカリキュラムが組み立てられており、伝統的な西洋画や版画の技法を始めとして、パソコンを用いたデザイン実習も行われている。以下、美術学（師範類）の学部生の教育実習にかかわる理論的な科目及び教育実習の手引きを基に美術の教員になるための学習内容を検討していく。

1.2 大学生の授業内容

美術学部では、近年の中国経済の急速的な発展と、国際化に対応し、近代化した社会を建設するためにさまざまな教育改革が断行されている。教育理念として知、徳、体のバランスのとれた社会主義社会の全面的な発展を目指している。美術教育および教員養成システムの目的は、美術教育と美術学の基礎理論、基礎知識および基本技能を修得させることである。また、地域に存在する美術の豊かな資源を学ぶことを通じて、個人の問題解決能力および創造能力を発達させる。そして、小中学校の教員と美術教育、美術教材研究の人材および美術教育にかかわる仕事に取り組める人材養成を図っている。

美術学部はデザイン専攻と美術学専攻の2つの専攻に分けられている。デザイン専攻では、専門的なデザイナーを養成している。美術学専攻は、小中学校の教員を養成するための専攻とし、それぞれ制作と理論を同等に行っている。表1と表2の通りになる。(以下全ての図表は筆者の作成によるものである)。

【表1】デザイン専攻のカリキュラム内容

制作的なカリキュラム内容	理論的なカリキュラム内容
<ul style="list-style-type: none"> ・素描のデザイン（設計） ・色彩のデザイン（設計） ・コンフィギュレーション（画面構成）と図形創意 ・装飾と図案のデザイン ・文字と版式のデザイン ・プレーンなデザイン及び印刷物の制作 ・撮影技術 ・イラストやデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン歴史 ・デザイン特論（概論）

【表 2】美術学専攻のカリキュラム内容⁹⁾

制作的なカリキュラム内容	理論的なカリキュラム内容
<ul style="list-style-type: none"> ・素描画写生 ・色彩画写生 ・スケッチ写生 ・中国画制作 ・油彩画制作 ・版画制作 ・水彩画制作 ・彫刻制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術特論（概論） ・中国美術史及び作品鑑賞 ・外国美術史及び作品鑑賞 ・教師総合素質 ・教育学 ・現在教育の技術 ・課程及び実践論

本論では、内モンゴル自治区の教員養成システムの現状を分析するため、美術学専攻生の教育実習を中心に分析することにする。

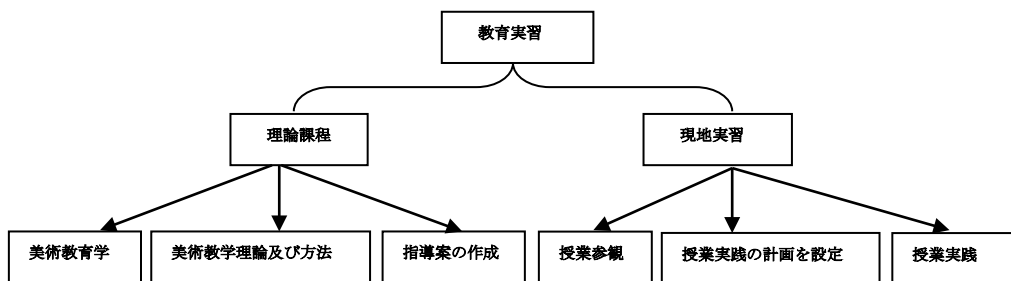
2. 大学生の教育実習の流れ

内モンゴル民族大学の学部生の教育実習は、大学4年目の前期に2か月の期間をかけて行う。内モンゴルの学校教育では、9月に新学年に入って、次の年の7月に修了となる。つまり、美術の学部生の教育実習は4年目の前期9月から11月にかけて行う。この3か月を以下のように2段階にわけて行っている。①はじめの1か月は理論的な科目及び指導案の作成などを学習することになる。

②次の月では、現地実習という形で行い、授業参観及び授業実践の計画と授業実践を行う。

まず、理論課程では図1のように3つの科目、美術教育学、美術教学理論及び方法と指導案の作成練習を行う。現地実習でも図1のように授業参観、授業実践の計画を設定と授業実践を行う。ここでは2つの段階で行う科目の内容を具体的に紹介していく。

【図 1】大学生の教育実習の内容



2.1 理論課程

理論課程は教育実践前準備である。大学4年の前学期の始めの月に行う。美術教育学、美術教学

理論及び方法の2つの科目を中心に、専用の教科書を利用し、それぞれ16回の授業時間を使って行う。ここでは、教科書内容を中心に具体的な内容を分析して行く。

『美術教育学』、『美術教学理論及び方法』は、2012年～2015年により内モンゴルの大学教育の中で用いられたものである。中国の中心的な大学で編集され、中国の「普通高等教育十一五¹⁰⁾国家級企画教材」となっているものである。

1) 『美術教育学』

本書は中国の北京首都師範大学の教授尹少淳 (yin shao chun) の著作である。現在では、内モンゴルの民族大学の実習生の理論科目の教科書として使われている。本書の中心的な内容は、3つの部で成っている。第1部美術授業の基本方法、第2部美術授業基礎内容、第3部美術教育の内容と分けることができる。以下では、表3を基に、本書の中心的な内容を説明する。

【表3】『美術教育学』の内容¹¹⁾

第1章	美術授業の基本的な知識と技能
第2章	美術教育に対する理解
第3章	美術教育の進化
第4章	美術教育の価値と目標
第5章	美術の知識と美術課程
第6章	美術授業の方法と概要
第7章	美術教学の評価
第8章	美術課程の資源
第9章	授業以外の美術教育
第10章	美術教師の成長

第1部の美術授業の基本方法の内容の中では、小中学生の記憶、注意、思想を美術の授業の中で導入する。教育活動は教育情報を伝達し普及する活動である。活動の中で、教師は情報を伝達する立場であり、子どもは伝達を受け入れた後に言語、表情、行為などで反映するものである。教師はこれらの反映を受け、自己発見し、自分の教育方法を改革するものである。

第2部の美術授業基礎の内容の中では、声、文字、画像、写真、動画、体の動作、表情を通して、子どもに指示を行い、知識を伝達し、技能を教え、情感を伝え、価値観を理解させることである。美術授業の過程では、題材→授業文書→ヒント→説明→解釈→指示という形で行う。美術の授業を体験し、自己発見し自分と美術教員との違いを認識すること、基本的な美術授業を行う知識や技能を理解することである。美術情報普及の角度から美術を理解する。美術授業を準備するための基本的な技術及び美術授業の過程を認識する必要がある。美術授業を行う基本知識を理解し、利用することができる。美術教育の学習者に対して、美術教育の知識及び技能を普及し、学者の知識を専門化させることを目的としている。

第3部の美術教育の内容の中では、外国、中国の美術教育の歴史の進化、変化について紹介するとともに、現在の『美術課程標準』(日本の学習指導要領図画工作編に当たる)の内容を分析してい

る。また、北京や上海など大都市の小学校で行われた授業実践の分析などが書かれている。

本科目の中では、学生が指導案を作成し、それらを同級生の前で、授業演習しながら実践授業の練習を行う。本書の中心とした思想では、美術教育の中で、これまでの知識や技能を重視する教育観¹²⁾から脱却し、子どもの存在¹³⁾（子どもの興味、関心）を重視し、子どもが主体的な自己表現ができるような授業構成することを提唱している。

2) 『美術教学の理論及び方法』

本書は中国の上海華東師範大学の教授銭初嘉（qianchujia）の著書である。中心的な内容については、美術教学（中国語の教学は、日本語の授業及び授業実践に当たる）

【表4】『美術教学の理論及び方法』の内容¹⁴⁾

第1章 美術教学の前提	第一部 美術教学の理論及び基礎
第2章 美術教学理念の基礎	
第3章 美術教学理論及び方法進化（変化）	
第4章 中国学校美術教学の歴史	第二部 美術教学の方法
第5章 美術教学设计	
第6章 美術教学の技術	
第7章 美術教学の内容及び方法	
第8章 美術教学の評価	第三部 美術教学の研究
第9章 美術課程資源の開発	
第10章 美術の教師の専門化及び成長	

の理論的な基礎内容及び外国の中小学校の美術授業実践の内容を分析し、中国の『美術課程標準』に従って美術授業実践を行うことを提唱したものである。本書の内容は、3つの部分

で成っている。第1部は美術教学の理論及び基礎、第2部は美術教学の方法。第3部は美術教学の研究である。以下では、表4を基に本書の中心的な内容を説明する。

第1部の美術教学の理論及び基礎では、美術教学の理論及び美術教学の発展状況を取り上げ、小中学校の美術教学実践と組み合わせながら、美術教学の実際の問題についての対策を議論している。21世紀においては、美術教育は理論と実践を組み立てて行わなければならないということを述べている。

第2部の美術教学の方法では中国基礎教育の中では美術の授業は重要な立場であることを指摘し、中国や外国の美術教育に関する研究成果について比較分析を行っている。また、外国の美術授業実践の成果を中国の美術授業実践と比較しながら分析を行い、さまざまな授業実践の事例を紹介している。

第3部の美術教学の研究では、中国や外国の美術活動を写真掲載で紹介している。また、美術教育に関する150編の論文を紹介している。本科目の中では、北京や上海で行った授業実践のビデオを見せることがある。内容としては、美術の授業実践教育を中心に、子どもが主体的に活動に取り組むことを提唱している。

2.2 現地実習

学部生の課程プログラムでは、4年目の学年で6週間をかけて現地実習を行う。実習生には、大学のほうから教育実習マニュアルが配布され、それによって現地実習を行うのである。

教育実習マニュアルでは、大学の教育実習の制度に関する説明、実習生が現地実習の期間内に行う仕事の内容などが掲載されている。実習生は、現地で授業実践を行いながら、クラス担任をし、学校教育の現状を調査するなど仕事に取り組んでいく。実習生の現地実践で行う仕事の内容を以下の3つ部分にまとめることができる。1) 現場の教員の授業を参観する。2) 指導案を作成し、授業実践を行う。3) 実習終了後、「教育調査報告書」と「教育実習報告書」を提出する。以下では、この3つの部分の内容を詳しく説明する。

1) 授業参観

授業参観では、現場の教員の授業を参観する。『美術課程標準』と教科書の内容に基づいて行った授業を参観するとともに、授業の要求、難点、授業を行う段階を記録し、授業内容及び評価するなどの仕事がある。実習期間中に10回の授業参観を行いそれらを記録する。表5の内容は2014年度の実習生李花荣 (li huarong) が作成した授業参観の記録である。

【表5】教育実習の授業参観記録¹⁵⁾

科目	美術	題材	簡単な絵、丸を描きましょう		
クラス	2年1組	授業時間	2014年11月14日7時～10時	教員	経欄
授業内容	1. 教員の教える標準的内容 黒板に簡単な絵を描き、子どもの興味関心を引き出す。そして簡単な絵を描く方法を学習する。 2. 授業の重点 簡単な絵を模写することができ、綺麗な色をつけることができる。 3. 授業の流れ 1) 授業の準備 (指導案)。 2) 授業の実施 ①題材を黒板に書く。②丸を描くことについて説明し、黒板に模範として描いて見せる。③教員が絵を描く順番を描いて見せ、子どもと一緒に色をつける。④みんなの絵を黒板に貼って鑑賞する。				
評価及び意見	1. 子どもが自ら考えることを重視した。 2. 生活の実情に近い方法を使った。 3. 授業の準備が完璧である。				

2) 授業実践

授業実践では指導案の作成及び実践授業を行う。指導案は、指導教員及び現場の教員の指導に従って作成するものであり、1人最低4つの指導案を作成する必要がある。

実践授業は、指導案に基づいて授業を行う。そして、クラスの授業以外の活動に参加し、子ども一人ひとりの様子を調査し、実習日記を作成する必要がある。また、授業を行った手順を明記する必要がある。表6の内容は、2014年度の実習生李花栄（li huarong）の作成した指導教案及び授業記録である。

【表6】教育実習の指導案¹⁶⁾

実習クラス	2年4組	科目	美術
題材目	私はパンダが好き		
使用教材	上海の書画出版社		
自用参考書	『美術学校教育の参考書』『中国美術教育』『美術教学方法』		
授業時間の割合	2時間	道具	紙、色鉛筆
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識の目標：鑑賞することを通して子どもたちがパンダの形及び特徴を理解する。 2. 学習目標：子どもたちが動物園にいるパンダを描くことを通して子どもの観察鑑賞能力を育成することができる。 3. 興味・関心：子どもの動物を愛する気持ちを養う。 		
重要点	子どもが丁寧な観察活動を通してパンダの特徴を理解する。		
難点	教師が子どもの描いているパンダを見ながら、さまざまなことを話し、子どもの生活と関連させること。		
授業の方法	教員が黒板に模範を見せ、パンダを描く方法を教える。①頭は丸形②体は長い丸の形。③目、耳、鼻は普通黒色や青色である。自由に考え、観察し、丁寧に描く。		
授業過程及び内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入。クイズ（みんなで先生の話している動物の名前を言う）①世界で草が大好きな動物。②黒いメガネを持っている。③体は球みたいに丸い。④竹を食べる動物は何？ 2. 準備した絵を鑑賞しその特徴を観察する。教員：「パンダはどんな形している？」子どもたちは、観察しパンダの丸い形を言う。教員：「パンダの体の形成は何？」子どもは、体は太っていて丸い、目、鼻、耳は黒色、青色、お腹は白いことを観察する。 3. 指示。黒板に模範を描き、パンダを描く方法を学習させる。①可愛いパンダをみんなで描こう。（簡単に描ける方法を教える）②パンダを描く方法。教員「紙の真ん中にパンダを描く。先に頭を描いて次に体を描こう。」紙の中でパンダを描く大きさを決めさせて、大きく描かないこと、小さく描かないことを注意させる。「みんなが見たら可愛いと思うパンダを描こう」教員「目や鼻を、、、など」 4. 黒板に画家が描いた作品を展示、みんなで鑑賞させる。 5. 教員は、子どもたちの描いている絵を見たり、子どもたちの絵に対して意見を述べる。 6. 作品の評価。黒板にみんなの絵を展示し誰が一番綺麗に描いたかを比較する。 7. 子どもたちに注意すること。①描く前に紙の上でパンダの大小の形などを考えなければならない。それから描き始める。②例えば教員が黒板に描いたパンダをよく観察させる。そうすれば、子どもの絵が綺麗にできる。 8. 学習効果。子どもの絵を教室の壁に貼り展示活動を行うと学習効果が大きいと考える。 9. 宿題。パンダの様々な動作を描いてきましょう。 		
板書設計	パンダが大好き、1.クイズ、2.パンダの特徴、3.体の形の特徴、4.パンダの絵を描く、5.描いた絵を鑑賞する、6.子どもたちが絵を描く、7.宿題。		
同級生の評価	当授業は効果がある。子どもたちはとても興味を持って、積極的に活動に参加した。		
現場教員の意見	授業の準備は全く完璧であり、声の大きさはちょうどいい。「子どもが教員の立場を尊重し、教員が子どもたちを愛する態度が素晴らしい。」 2014年11月10日 パイ・サロラ		
指導教員の意見			

3) 教育、授業の調査報告書及び授業実践の報告書

実習生の1か月の理論科目及び2か月の現地実習のまとめとなっている。現場の教育及び授業を行うという形式を調査した報告書では、授業実践を行った学校と理論的な科目を組み合わせる現在の小学校美術教育の問題点及び教育問題点を取り上げている。授業実践の報告書では、教育実習を通して習得してきた内容について書いている。表7と表8は、2014年度の実習生李花榮 (li huarong) の書いた「学校教育の調査報告書」と「授業実践の報告書」である。

【表7】学校教育の調査報告書

「学校教育の調査報告書」
<p>美術教育は優秀な人材育成の中で欠くことができない科目である。学校は、人材を育成する基地であり、基礎教育の科目の内容及び設備は子どもの将来への望みや専門的興味と繋がっている。本文章では、新聞の記事の内容を分析し、現在の小中学校の美術教育の中に存在している問題点を指摘し、美術を教える方法を重視する必要を主張したものである。</p> <p>素質教育を前提とした『美術新課程標準』(2011年)が発行されており、また中国は独特な芸術の要素がある国でもある。近年になって、芸術に興味を持つ人が多くなってきている。それに伴って美術教育を巡る様々な問題点が見えてきた。しかし、様々な実情により、美術教育を本格的に重視することがまだ出来ていない状況である。美術科目の担当教員も他(国語や数学)の科目の教員と同じような社会の尊重を得られておらず、芸術科目の教育は比較的に他の科目より研究が遅れているのが現状である。本文では、素質教育の歩みを探りながら、美術科目設定、授業の状況、子どもの実態を分析するとともに美術科目を教える方法がどのようになされるべきか自分の意見を提言したいと考えている。夢国小学校の美術の授業を調査対象とする。</p> <p>1. 一つの新聞の記事による教育思想</p> <p>2010年12月4日の「銭江夕報」(新聞の名前)に一つの記事「子どもが絵画の展覧会を見ながら学芸員にした質問:「呉冠中の絵の中心的な思想とは?」」が掲載された。呉冠中の絵の展覧会が杭州で行われた。会場には、美術に興味がある多くの人々が展開を見に来る。その中である小学校の子どもたちが親たちと一緒に会場に現れた。その中で小学校三年生の少女が展覧会を見たあと、会場にいた学芸員に質問した。「先生、呉冠中の画の中心的な思想とはなんですか?」その後、女の子は、学芸員の説明を聞きながら、学芸員の話全部自分の手帳に記録した。それを見た学芸員は、ビックリしたのである。</p> <p>このことから、子どもの芸術に関する興味を引き起こすため、保護者たちは、どのように頑張っているかがわかる。これを見た絵画の専門家たちも少し恥ずかしく感じたのである。このように子どもたちは次から次へと質問していった。</p> <p>もう一人の男の子が、呉冠中の作品女性の裸の体の絵を見て「なんでこのような絵を描くの?気持ちわるい」といった。それを見た、保護者はその男の子をすぐ移動させ他の絵を見せるようにした。保護者は、裸の体を描いた絵を子どもには見せちゃいけないと考えたからである。</p>

呉冠中の有名な教育思想がある。それは、「眼は眼を教える」である。彼は、美術を教えることは美的感覚を養うことである。美術を教えることは技法を教えることではなく、美を見る眼（審美眼）を養うことであるという。彼は、テレビ番組でも「中国の美術教育は審美眼ではなく、多くの「美を見る」目（客観的観察眼）を育てた」といったことがある。

現在の保護者たちは、子どもを様々な美術や芸術の塾に通わせている時、客観性で「美を見る」という教育の間違った教育方法であることを意識していない状況である。小学校三年生の子どもの質問「呉冠中の絵の中心思想はなんですか」という質問に対し、展覧会の学芸員の答えは、「呉冠中の絵の中心思想は美です」と答えた。それを子どもは手帳に記録したのである。

この記事の作者は、「非常に長い時間考えた。現在の子どもは美術を勉強する時、美を感じることができなく、文学、数学のように勉強している。このような問題は、表面的に理解してはいけない、重要なのは、国の教育制度から見直さなくてはならないことである。」と記事した。

2.すでに述べたように現在の絵画教育（美術教育）の問題点は、絵画を国語のように勉強している。現在の中小学校の子どもたちは、何文字もない文章から中心思想を解釈しようとしている。文章を理解することや文章を解釈する能力を重視し、子どもの感じることや想像することを無視しているのである。呉冠中の絵の中心思想はなんですかと質問した少女のことは、我々の教育に存在している問題現象である。このように、展覧会で鑑賞している子どもや舞台公演を鑑賞している子ども、あるいは、音楽会で音楽を聞いている時でもこのようなことは多く見られている。これらは、我々の素質教育の中で不足していることの検証である。

現代のグローバル社会の中で、芸術を従来の言語で読むということは教育形式としては間違っていることをわかってきている。これからは、芸術作品を新たな芸術理念を持って見なければならない。また、今の小中学校の芸術（美術）教育の教科及び大学の教科教育の教材が現在の社会発展より遅れている現状である。それに対し、現在受験教育の制度を改革し、素質教育の理念を重視する必要がある。また、これも現在の教育改革の中で重視しなければならないことだと考えられる。

3. 小中学校の美術教育を改善する過程及び方法

学校は人材を養う基地である。子どもの基礎教育（小中学校の教育）は、子どもの将来に対する理想や自分の専門を選ぶための基礎である。学校の美術教育方法及び内容を改善し美術教育を人々に理解させることは、子どもの美的素質を育むことは重要である。

また教員養成システムの専攻の中で、教育実習システムの建設を重視し、授業設定や教育方法などを重視する必要がある。

美術教育を重視することは、素質を伸ばすことができる保証である。この中で小中学校の美術教育を改善することは、素質教育へ全面的に推進する重要な歩みでもある。

作者：李花榮 (li huarong) 2014年12月10日

表7の「報告書」の作成者は現在の美術教育の中に存在する問題点を取り上げている。現在の中国の学校教育は人材培養及び素質教育階段であり、その中で美術教育は人々の素質教育では欠くこ

とのできないものである。美術教育は国語や算数と違い覚えたりや計算をする授業の内容と違い、美術を通して、人間の審美力を高めることができる。また、調査では、現在の保護者たちは、美術教育を重視しておらず、美術教育の重要性を認識していないことを取り上げている。そして、2014年の教育実習生19人のうち16人は同じような問題点を取り上げている。

【表8】授業実践の報告書

授業実践の報告書
<p>2ヶ月の実習生活を通して、教員になる喜びや難しいところを体験することができた。実習期間で子ども達と触れ合う中で自分の小中学校の時代を思い出した。現在の子どもたちは我々の小中学校の時代より、もっと大胆、もっと元気であるように感じる。現在の学校の要求も厳しくなっているところが見えた。現在、小中学校の教員になるためには、もっと勉強しなければならないことを実感した。小中学校に教員の立場として学校に行った時はとても嬉しかった。はじめての実習生活がとても新鮮であった。</p>
<p>最初の一ヶ月は、現場の教員の授業参観を行った。授業参観では、現場の教員授業の中で授業を行う形式や授業時間把握、子どもたちどのように教えるかを中心に理解することである。</p>
<p>はじめての実践授業を行った時はとても緊張した。実践授業は普通のクラスで行った。(美術専門のクラスと普通の美術授業に分かれている)。作品鑑賞の授業を行った。自分で想像していた授業と現実の違いを大きく感じた。指導案を準備し、鑑賞授業の写真をパワーポイントで作った。しかし、教室にパソコンがないため、教科書に頼りながら授業を行ったのである。子どもたちは、新しい先生を見て、とても新鮮でにぎやかであった。しかし、私は黒板の前でとても緊張していて、今思い出すと恥ずかしくなる。そして授業の後、指導の先生の意見を聞きようやく指導案をしっかりと書けるようになった。それからは、授業を写真や様々な資料を集めて行った。子どもたちの実情に合わせて授業時間を設定し、授業の中で子どもたちの主体的に活動することを重視し、子どもが自分たちで活動することを重視しているとわかった。毎回の授業を行う前、指導案をしっかりと準備して授業を行った。はじめの時は、私の声が小さくて、一番後ろの座っている子どもは聞こえなかったようであった。その後指導の先生の意見を聞き改革した。しかし、言葉の速度が遅いことはなかなか直すことができなかった。</p>
<p>実習の最後の授業では、当学校の教育課長が授業参観した。私は、実習期間で行った経験をまとめ、最後の授業を行った。授業はとても成功したと思われる。授業時間、授業の内容を子どもたちに理解させることができた。</p>
<p style="text-align: right;">作者：李花榮 (li huarong) 2014年12月20日</p>

表8では、教育実習の流れ、現地授業実践を行った流れについて書いている。(例：現場の教員の授業参観を行い自分で指導案を作成した。)そして、現地授業実践を行った内容等が書かれている。

以上、2015年9月に内モンゴル民族大学で行った現地調査及び2014年に行った学部生の教育実

習に基づいて、学部生の教育実習の段階及び流れを紹介した。続いて、2014年の学部生李花榮（li huarong）の教育実習で使われた『教育実習マニュアル』を基に、現場の教員の指導案及び学生の指導案を分析する。そして、現在の内モンゴル民族大学の美術教育の授業実践の方向性を探っていきたい。

3. 教育実習の指導案による分析

分析目的は、内モンゴル民族大学の美術学部生の授業実践の題材及び内容の方向性を確認するためである。ここでは、大学生の李花榮（li huarong）の『教育実習マニュアル』（2014年）の中で「授業参観」、「現地実践」で行った18回の授業の題材、内容、目標及び授業の方法を対象に分析を行う。授業分析方法は、①18回の授業の題材、内容、目標及び授業の方法『美術課程標準』の4つの分野の活かし方及び『美術課程標準』の基本理念の捉え方の分析を行う。②大学生の指導案を基に授業を行う方法を分析する。

表3の中の題材で①から⑫までの12回の授業は授業参観中に、現場の教員及び同級生の実習生が行った授業である。⑬から⑱までの6回の授業は教育実習生の行った授業実践である。

3.1 分析対象となる授業内容

表9は内モンゴル民族大学の学生大学生の李花榮（li huarong）が教育実習マニュアルに基づいて、教育実習中に参加した全ての授業実践である。2014年内モンゴル民族大学の美術学（師範類）のモンゴル民族4年生が教育実習の中触れた18回の授業内容である。18回の授業の中で前12回の授業は現場の教員及び同級生の行った実践の内容である。すでに述べたように当大学の美術学の学生全員は師範類であり、小中学校の教員養成として育成されている。

【表9】 教育実習で行われた授業実践の内容¹⁷⁾

題材名	学年	内容	教材及び道具	目標、重要点	授業の方法
①簡単な絵、丸を描きましょう	2	丸を描く、絵画	筆、紙	簡単な丸を正確に綺麗に描くことができる	丸を描く方法を説明し、模範の絵を描く。そして子どもが自分の好きな色で丸を描く。
②カラフルな服装	2	動物にカラフルな服装を描く。絵画	教科書、筆、色鉛筆、紙	さまざまな動物の色や形の規則性について理解できる。	子どもたちにさまざまな動物を鑑賞させる。そして、子どもたちが好きな動物を描きさまざまな服装を描く。
③電話	2	さまざまな形の電話を描く。絵画	教科書、色鉛筆、紙	生活の中で使われている様々な電話の形を認識させる。	電話とは何かについて説明し、黒板に何種類かの電話を描く。子どもたちは宿題で電話の形を描く。
④果物と野菜園	2	さまざまな果物や野菜を認識させる。	教科書、果物の写真	子どもたちがさまざまな果物や野菜の形を区別できる	子どもたちに果物や野菜の形について話しながら、果物や野菜の写真を見せ

		鑑賞		こと。	る。
⑤動物	2	さまざまな動物の形を描く。 絵画	鉛筆、紙	自分の描こうとしている動物の生活環境及び特徴を理解する。	物語を話し、子どもたちに動物について話しをさせたりして動物をイメージさせる。
⑥車と駅	2	駅的环境を描く。 絵画	鉛筆、紙	駅を描くことができ、交通を注意することと環境保護や鑑賞能力を養う。	黒板に絵を描く。子どもたちに黒板に絵を描かせる。
⑦キャプション画	2	キャプション画を描く。 絵画	鉛筆、紙	子どもたちにキャプション画を描く技法を教える。ものごとを拡大して描く方法を教える。	物語を話し、子どもたちに自由に話をさせて、さまざまなことを考えさせて描かせる。
⑧建物の美しい風景	2	さまざまな美しい建物を鑑賞させる。 鑑賞	写真	国内外の美しい建物を鑑賞させ、その形や特徴を区別することができる。	さまざまな形の建物の写真を見せて、子どもたちと一緒に形を描き、建物の特徴を理解させる。
⑨服装を設計しよう	7 中1	自分の好きな服装を設計する。 設計	教科書 写真、鉛筆、紙	古代から現代にかけて服装の変化や様々な場で着る服装の形を理解することができる。	古代から現代にかけて服装の変化の歴史や現在の人々は何のような服装を着ているのかについて考えさせる。宿題で自分の好きな服をデザインしてくる。
⑩面白い漫画	3	漫画を鑑賞させる。 鑑賞	教科書 漫画の写真	漫画の歴史や形について理解できる。	一番古い漫画を見せる、漫画の紹介や黒白漫画、漫画の発展について紹介する
⑪巨大人の国と小人の国	3	巨人の国と小人の国を表現した絵を描く。 絵画	教科書 物語、鉛筆、紙	大ききものと小さいものを比較することができる。	準備した絵を見せる。先生が黒板に見本の絵を描く。
⑫一番尊敬する人々	2	自分の尊敬する人の形と特徴を描く。 絵画	教科書 色鉛筆、紙	自分の一番尊敬する人の形や特徴を描けること。	様々な例を話し、尊敬する人々を紹介し、黒板に形や特徴を描く。
⑬私はパンダを愛している	2	パンダの特徴を描く。 絵画。鑑賞	教科書 紙、色鉛筆	パンダの特徴また形を区別することができる。動物を保護する気持ちを持つことができる。	黒板にパンダの形を描いて、パンダをどうやって描くかを模範として見せる。子どもたちに自由に考えさせ、特徴を鑑賞させる。
⑭美味しい果物を鑑賞する	2	ものの形を鑑賞紙描かせる。 鑑賞、絵画	教科書 紙、色鉛筆	さまざまな果物の形や色を区別することができる。また、故郷を愛し、労働を尊敬する気持ちを持つ。	さまざまな果物の形や色を紹介する。写真を見せ、模範の絵を描く。
⑮花の園	2	花の園の小さな虫の形や特徴を話し、絵を描く。 絵画、鑑賞	教科書 紙、色鉛筆	子どもたちを気持ちいい環境に行かせ、体や心の健康を守る。花を大切にすることを心を持たせる。	花や虫の形を物語を話すことを通してイメージさせ、また、写真を見せながら子どもたちに花や虫の形の特徴などを考えさせる。
⑯星空を繋げてみましょう	6	さまざまな星について自分の考えで描く。 絵画	インターネットの写真 色鉛筆、紙	さまざまな星について考え、星の形と意味を理解する。	星形について質問する。画面の星の形を紹介する。
⑰お面	6	似顔を描く。 絵画	教科書 画像、色鉛筆、紙	中国の伝統文化であるお面の遊びについて理解させ、その形を描くことができる。	お面の写真を見せながら様々なお面について話させる。作る技法について紹介する。
⑱海の世界	6	魚の形を鑑賞し、好きな魚を描く。 鑑賞と絵画	教科書 鉛筆、紙、画像	さまざまな魚の形やその特徴を理解させる。自分で魚の形を描く。	画像を利用し魚の形を紹介し、特徴について質問する。

3.2 題材名及び内容の方向性

表3の「学年」の類別からわかるように教育実習の学生は、実習期間内では、小学生から中学生にかけてさまざまな学年の授業に参加することができ、違った学年の子どもたちと触れ合うことが

できる。しかし、授業実践の題材名は80%が教科書を基にし、教科書の教材を使っている。教科書に基づいているため、以下授業内容を、『美術課程標準』の4つ分野である。「造形・表現」、「設計・応用」、「鑑賞・評価」、「総合・探索」及び『美術家庭標準』の基本理念による捉え方を分析することにした。

図2を見てわかるように、「造形・表現」が55%、「設計・応用」が6%、「鑑賞・評価」が17%、「総合・探索」が22%占めている。具体的に、「造形・表現」では、ほぼ絵を描く内容で色鉛筆で色を塗ったり、物の形や色を知識的に区別して見る事ができることと色の組み合わせを上手にできることなど技法及び知識を目標としている内容があり、「設計・応用」でも、絵画やデザイン画を描くことを要求している。「鑑賞・評価」と「総合・探索」の中では、建物のデザイン、物の形の変化を区別できること、

または、線の描き方、並べて描くなどのような知識的なものを目標とする内容を設定している。第2章で、述べたような『美術課程標準』の4つの分野の目標を捉えようとしているが、作品、技術を重視した教育内容「伝統的な技法及び技術を教える」という影響が多く残されていることがわかる。『美術課程標準』の4つの分野の目標の内容は以下ようになる。

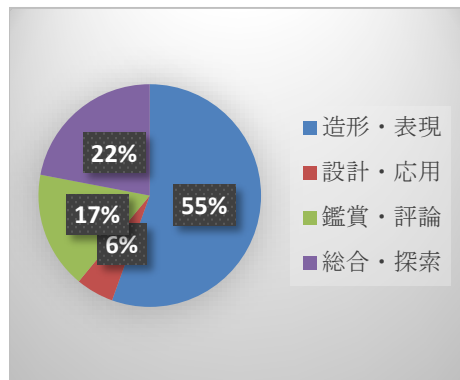
1) 「造形・表現」の学習領域

線條、形状、色彩、空間、明暗、技法など基本的な造形要素を観察、認識、理解すること。造形活動の中で均衡、重複、リズム、比較、変化、統一等の造形の形式の原理を利用することができる。また、想像力と創造力を発揮できる。美術のさまざまな材料、技法し、制作過程でさまざまな表現方法を試しながら芸術に対する感知能力と造形表現能力を発展させる。そして造形活動を通して、創造力と表現力を育成し、美術学習に対する興味を引き起こす。

2) 「設計（デザイン）・応用」の学習領域

設計と工芸的な知識を理解し、その意義、価値及び設計思想を認識すること。設計と工芸の基本的な手係りを理解したうえでデザインの創新工芸制作の基本方法を学習する。身近な物事及び問題

【図2】美術課程標準に見た実習生の授業実践内容の方向性



解決能力を身につけること。また、さまざまな材料の特徴を試し、意図に従って材料を選択し、道具や制作方法を正確に使いながら、基本的な設計製作活動を体験すること。その中の学習目標は創造意識と創造能力を発展させることである。

3) 「鑑賞・評論」の学習領域

自然の美を体感し、そして、美術作品の題材、主題、形式、風格や流派などを理解すること。重要な美術画家と美術の作品を勉強し、美術と生活、歴史、文化の関係について理解すること。そして、子どもの審美眼と判断力を育成することである。さまざまな角度から美術作品を鑑賞することができること。視覚的な感覚を発達させ、理解と記述能力を発展させる。そして、初歩の美術作品の鑑賞方法を身に付けさせる。自然美、美術作品及び美術活動に対する興味を持たせる。健全な審美的興味、民族の文化及び民間芸術遺産を大切にすることを認識させることを目的としている。

4) 「総合・探索」の学習領域

美術科目の題材や内容を他の科目と関連させることによって、子どもに総合的な問題解決能力を身に付けさせる。子どもが探究することで、美術と自然、美術と生活、美術と文化、美術と科学技術との関連を認識させ、総合的な美術の活動を通して視野を広範し、想像空間を広くする。また、実践授業を行う中で、『美術課程標準』の基本理念である5つの理念を活かすことを以下のようにまとめることができる。図3を参照。

①子どもが基本的な美術の素養を身に付けるために授業実践では、色や形に対する感覚、また、様々な物を区別し、認識できることを重視している。

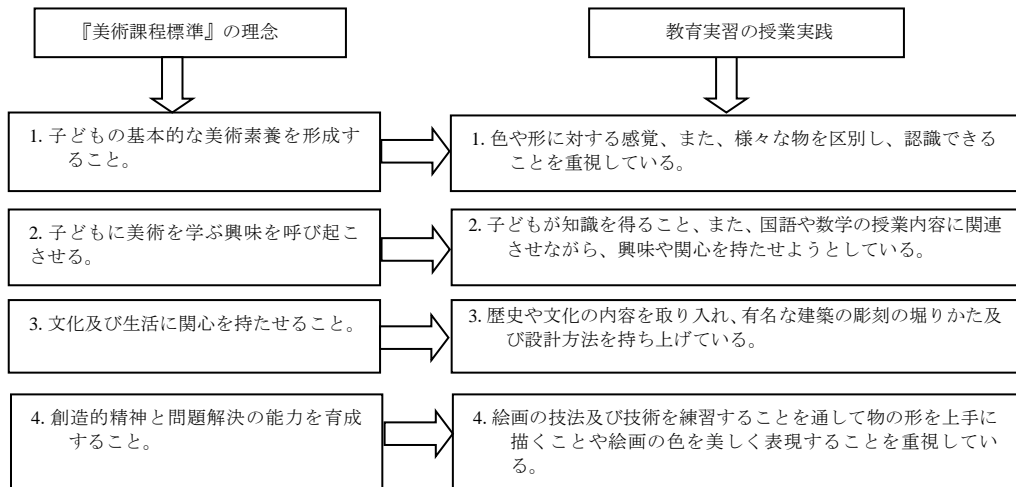
②子どもの美術に対する興味を呼び起こすために授業実践では、子どもたちに美術作品の技法を観察させることや国語や数学の授業内容に関連させながら、興味や関心を持たせようとしている。

③広範な文化の中で美術を認識するために授業実践では、歴史や文化の内容を取り入れ、有名な建築の彫刻の掘りかた及びデザインを取り上げている。

④創造的精神と問題解決の能力を育成することに対して授業実践では、絵画の技法及び技術を練習することを通して、物の形を上手に描くことや絵画の色を美しく表現することを重視している。

⑤発展と促進のための評価できるように授業実践では描き終わった絵を先生が黒板に飾り、評価しながら皆に鑑賞させ、好きな絵を選択させている。

【図3】『美術課程標準』に見た18回の授業実践の内容

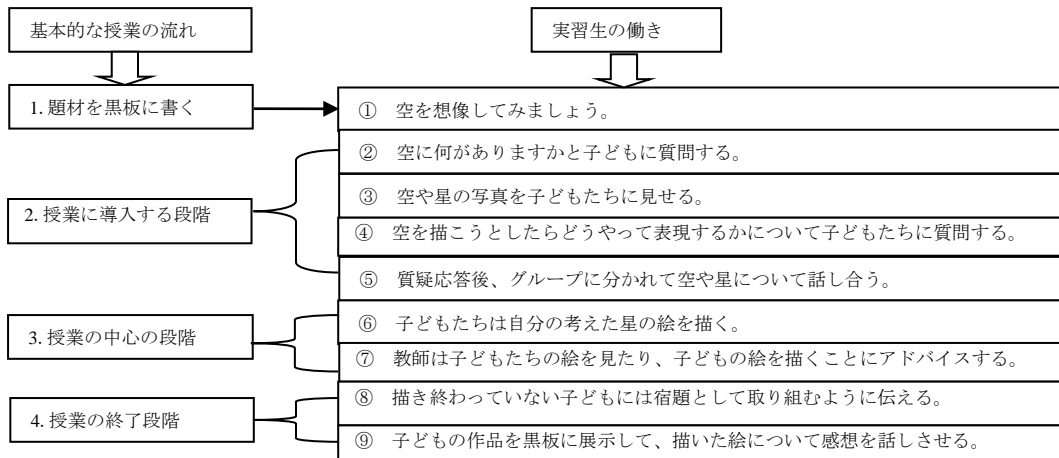


3.3 実践授業を行う方法

大学生が行っている実践授業の方法は基本的に4つの段階で行っている。第1段階では、題材名を決め、指導案を作成する。そして授業の中では、題材名を黒板に書いて子どもたちに説明する。第2段階は、子どもたちに授業の内容に対して興味を持たせることである。方法については、授業の内容に関して話したり、子どもたちに質問をしたり、授業内容に関わる写真や絵を見せたりすることが多い。第3段階では、授業の中心段階でもあり、子どもたちが表現する段階である。方法としては、先生が子どもに模範として絵を描き、見本を見せてから子どもたちが絵を描き始める。その中で、指導教員は、子どもたちが描いている絵をみたり、子どもたちに描き方についてアドバイスしたりするような方法を使っている。第4段階は、授業の最後の部分である鑑賞である。方法としては、子どもたちの描いた絵を黒板に飾り、子どもたちから自分の絵について感想を話しさせたり、他の子どもたちの絵を評価してもらったりする。また、最後には描き終わっていない子どもには宿題として絵を描くよう指導している。図4を参照。

4つの段階で行っている授業の内容を見ると、授業の形や行う方法は他の科目、国語や数学の授業を行う方法と同じような形で行っている。授業を行っている指導者の行為を見ると子どもの知識を広げる、発達させるという目的で授業を行っている。また、第3段階や第4段階から見ると子どもが作品を上手に仕上げることに注目し、子どもに模範を見せたり、見本を見せたりしていることが考えられる。

【図4】実習生の実践授業の流程



まとめ

本稿では、大学生の教育実習の現状を調査しながら、大学生の実践授業を中心に分析した。内モンゴル民族大学美術学部的美術学は教員養成専攻であり、小中学校の教員を養成することになっている。大学生の教育実習は大学4年目の前期の3か月を利用し、集中的に行っている。教育実習の流れは、現地実習前訓練1か月と現地実習と2つの段階に分けて行っている。教育実習前訓練の中では、美術教育に関する理論的な内容、また、指導案を作成する練習をする4週間を利用して行っている。現地実習では、授業参観と授業実践の2つを6週間を利用して行っている。

理論的な授業内容では、『美術教育理論と方法』と『美術教育学』の2つの教科書を利用し授業を行っている。基本的な内容としては、美術教育の理念及び中国美術教育の歴史を『美術課程標準』を基に、教育方法及び授業設定を行う方法や内容を教えている。

授業参観では現場の教員が行った実践授業及び同級生が行った実践授業を参観している。実習生は教育実習期間内に10回の授業を参観する義務がある。実践授業は現場の教員の指導、大学指導教員に指導を基にし、指導案を作成し実践授業を行っている。

また、2015年度の大学卒業生李花荣 (li huarong) の『教育実習マニュアル』(2014年度) 取り上げ、その中の内容、「授業参観」と「現地実践」合わせて18回の授業実践の題材、内容、目標及び授業の方法を分析した。8回の授業の題材、内容、目標及び授業の方法『美術課程標準』の4つの分野を活かし方及び『美術課程標準』の基本理念の捉えている内容と大学生の指導案を基に授業を行う方法を分析した。

分析した結果、①理論的な科目では、中国の『美術課程標準』の内容に基づいた代表的な授業実践を紹介、世界の先進国の授業実践方法の紹介、中国美術歴史内容の紹介など非常に充実した美術を教える方法を紹介していることがわかった。②現地実践では、6週間の集中した授業実践の中で行った18回の実践授業を分析した結果、教科書の内容をそのまま利用し授業を行っていること、授業内容は、知識や絵画の技法、作品を重視した授業内容が多くみられていることがわかった。

全体的に次のようなことがいえる、教育実習期間は3か月あまりであり、理論授業や授業参観、授業実践など内容は充実している。しかし、教育実習期間が集中し、学生が子どもたちとはじめて触れ合っ、自分の教育方法や考え方の不足点を考え直す時間がない状態で、授業実践が終わっている。実践授業の内容は、自分で指導案を作成していることになっている。しかし、内容や方法は、教科書内容に頼り、学生が自分の考えで作成しているものではない。授業内容及び方法としては、授業内容は知識や絵画の技法、作品を重視した授業内容が多いことがわかった。

<注>

- 1) 銭初嘉、『美術教育理論と方法』、北京高等教育出版社、2005年
- 2) 伊少淳、『美術教育学』、北京高等教育出版社、2009年
- 3) 渡辺一洋、「内モンゴルの伝統文化が影響する造形教育における幼児の感性形成」、『育英短期大学研究紀要』第32号、2015年3月
- 4) 内蒙古民族大学のHP、<http://www.admissions.cn/imun/index57.htm>、(2016年1月14日)
- 5) 内蒙古民族大学のHP、<http://www.admissions.cn/imun/index57.htm>、(2016年1月14日)
- 6) 美術学（師範類）は、美術教員を養成する専攻をいう。
- 7) デザイン（非師範類）は、専門的なデザイナーを養成する専攻をいう。
- 8) 内蒙古民族大学のHP、<http://www.admissions.cn/imun/index57.htm>、(2016年1月14日)
- 9) 「内蒙古民族大学美術学部の紹介」、内蒙古民族大学HP <http://www.admissions.cn/imun/index57.htm>、(2016年1月14日)
- 10) 十一五とは、中国社会主義社会発展企画を1952年から5年を1つの企画期間として計画している。現在は第十一回の五年の企画である。
- 11) 伊少淳、『美術教育学』北京高等教育出版社、2009年、伊少淳
- 12) 麻麗娟「中国中学校の美術教育における総合課程の実践化についての考察」、『教育美術』、2015年1月号（No871）、p.46
- 13) 佐久間敬「地域を生かした造形教育」、『福島大学教育実践研究紀要』第16号、1989年11月 p.24
- 14) 銭初嘉、『美術教育理論と方法』、北京高等教育出版社、2005年
- 15) 『内モンゴル民族大学本科学士教育実習手冊』、内モンゴル民族大学教務係の印刷、2014年、p.5.
- 16) 『内モンゴル民族大学本科学士教育実習手冊』、内モンゴル民族大学教務係の印刷、2014年、p.29.
- 17) 『内モンゴル民族大学本科学士教育実習手冊』、内モンゴル民族大学教務係の印刷、2014年、pp.29-52

主指導教員（佐藤哲夫教授）、副指導教員（柳沼宏寿教授・伊野義博教授）